

ふじみサラダボール子育て情報



「知的発達と言葉の育ち」

令和7年3月12日号

板橋富士見幼稚園



乳幼児期に多様な経験が出来る自然環境を

2歳から3歳に向けて自我の芽生えが強くなってきます。実はこの時期から多様な経験を積み重ねていくことで、知的な成長が加速されます。

3歳から集団に参加する事の意味は、ここにあります。

この時期は、自我が芽生えると同時に体内の感覚器官の五感と言われる機能が開化します。五感とは、視覚・聴覚・味覚・臭覚・触覚の5つの感覚を言います。この五感は人間がストレスのない穏やかな時に、鋭く機能すると言われてしています。

自我が芽生えると、感覚的に感じたことを周囲の大人に「ほしい」「したい」「食べたい」「触りたい」など欲求という形の言葉で強く伝えてきます。この“伝えられる”ということが、将来の学びに大きく影響するのです。自分の欲求を周囲の人に、しっかりと伝えられる力を育てるためには、いくつか条件が必要となります。



単純なことですが、その子の欲求や思いを否定したり、さまたげたり、叱ったり、ストレスを与えたりすると、五感の機能は低下し、自分の思いを閉ざしてしまいます。自分の目の前に広がる豊かな自然的環境の中で、大人に見守られ、ゆったり探索し、遊びを見つけ楽しむ環境が重要となるのです。

幼児期に教え込む教育は、子どもにとっては大きなストレスとなります。五感が閉ざされた中で、あれやこれやと大人に指示され学ばされたことは、将来の学びや知的な力には結びつきにくいと言われます。

自ら自然的環境に好奇心を持って働きかけることで、五感の機能を介して思考や判断、表現力が豊かに育ち、高まる感動や感激した心の言葉を、誰かに伝えようと必死に周囲の大人に語りかけていくのです。この姿が主体的自発性と言われる姿です。是非、自然の中で、ゆったりと遊び、楽しませてあげてください。黙っていても、知的な学びを積み上げてくれます。



【雪が降った日、子ども達は大喜びで

手を伸ばして雪の冷たさや感触を楽しみました】